

小中一貫のプロジェクト学習で 地域のために行動する力を育む

茨城県 つくば竹園学園 つくば市立竹園東小学校

つくば市立竹園東小学校は、2小1中で小中一貫教育を行っている（施設分離型）。軸となる取り組みの1つが、自ら課題を発見し、体験を通して理解を深め、自分出来る貢献を考える「発信型プロジェクト学習」だ。9年間の系統的な活動で、地域や社会の一員であるという意識を生み出し、行動する力を育てている。

取り組みのねらい

- 友だちとの意見交換を通して、自分の考えを深める力を育てる
- 周囲とのかかわりを通して、相手を思いやる心を育む

取り組みの内容

- 自ら問題を発見して理解を深め、自分出来る貢献を考える発信型プロジェクト学習を行う
- 子どもの実態を踏まえ、学園全体で教科ごとに課題を洗い出し、各学年で付けたい力を明確にする
- 9年間を通して育てたい姿を、小中の教師全員で共有し、各学年の学習内容を構成する

取り組みの成果

- 自分で課題を見付け、自分なりに一生懸命考え、主体的に学習する姿が見られるようになった
- 友だちとのかかわりによって、思考を深めると共に、自分の考えを伝えようとする意識が付いた
- 上級学年を目標とし、自分の成長を見通して学ぶようになった

取り組みのねらい

友だちとかがわる中で
考えを深め、思いやりを持ってほしい

つくば市立竹園東小学校は、大学や研究機関が集まる筑波研究学園都市の中心部にあり、筑波大と共同開発した情報教育のプログラムを行ったり、外国籍や帰国児童が多い環境を生かして国際理解教育を進めたりするなど、先進的な教育を推し進めてきた。田村実枝子校長は次のように話す。

「教育熱心な保護者が多いこともあり、子どもの基礎学力は総じて高い状況です。地域の教育資源を生かした教育活動を行い、子

S c h o o l D a t a

◎1974(昭和49)年、筑波研究学園都市の最初の小学校として開校。1977年、全国で初めて学習にコンピュータを導入し情報教育を開始。2011年から小中一貫教育研究つくば市大会研究指定校。



- 校長 田村実枝子先生
- 児童数 649人 学級数 25学級(うち特別支援学級4)
- 所在地 〒305-0032 茨城県つくば市竹園3-13
- TEL 029-851-2032
- URL <http://www.tsukuba.ed.jp/~takezono-east-e/>
- 公開研究会 2015年11月10日(火) 予定

社会を生きる力を育む——地域、家庭とつくるキャリア教育

もたちの興味・関心を深め、その力を更に高めることに力を入れています」

つくば市では、2012年から、中学校の各校區を「学園」とし、小中一貫教育を推進している。同校は、竹園東中学校と竹園西小学校と共に「つくば竹園学園」を構成する。同学園は小中一貫教育の開始に伴い、子どもの実態を踏まえて課題を整理した。根本智教頭は子どもの様子を次のように説明する。

「自ら学ぼうという姿勢が見られませんが、友だちとの意見交換をして、自分の考えを深める力がやや弱いと感じました。自分をしっかり持っている一方で、もっと周囲への思いやりを持ってたらと思うことができました」

取り組みの内容

3ステップで考えを深め、共有し
さまざまな生き方に触れる

つくば市が進める小中一貫教育の軸となるのは、21世紀型スキルの育成を目指す発信型プロジェクト学習「つくばスタイル科」だ。コア・カリキュラムの「環境」「キャリア」「歴史・文化」を中心に、9年間を系統化したプログラムを作成。文部科学省の教育課程特例校の指定を受け、「総合的な学習の時間」や生活科、特別活動などを組み替えて活動を行っている。

「つくばスタイル科」の授業は、「IN（課

題を見付ける）」「ABOUT（情報を集める）」「FOR（何が出来るか考え、発信する）」の3つのステップで進める発信型プロジェクト学習を基本とする。例えば、6年生のキャリア単元「広げよう！ 夢・希望」の流れは次のようになる。

① IN：課題発見

自分が知っている仕事を発表したり、他の仕事を本で調べたりした上で、家族や知り合いに仕事のやりがいや苦労、仕事に対する考えなどインタビューをする。働くことについて、人によってさまざまな思いや考えがあることに気付く。

② ABOUT：交流・協働/まとめ

子どもが地域とのかかわりを感じられるよう、企業や研究所、地域の人を招いてインタビューをしたり、地域の企業や商店を訪問し職場見学をしたりして、働く人の生き方や考え方に触れる。学んだことをワークシートにまとめて報告会を行い、自分の職業観を深める。子どもたちはインターネットや本などからも情報を集め、収集のコツを伝え合いながら情報収集力を身に付けていく。

③ FOR：提案・発信/実践

テレビ会議などを活用し、竹園東中学校と竹園西小学校の子どもと意見交換を行う。多様な意見を聞いた上で、職業観や生き方について、自分の考えをまとめる。また、地域社会の一員として、自分が目指す生き方や職業



つくば市立竹園東小学校校長
田村実枝子 たむら みき
「校長として、子どもたちが未来への夢を育みながら、楽しく学べる学校をつくりたい」



つくば市立竹園東小学校教頭
根本智 ねもと さとし
「子どもはもちろん、先生方にとっても安心感や温かさを感じられる居心地の良い学校をつくりたい」



つくば市立竹園東小学校
研究主任。**永岡範之** ながおか のりゆき
「子どもにはそれぞれ違った良さが必ずある。それを毎日のかかりから見付けたい」



つくば市立竹園東小学校
つくばスタイル科学園主任。**谷山友香** たに ともか
「気持ちよいあいさつを交わして心と心をつなぎ、出合いを重ねていきたい」



つくば市立竹園東中学校
つくばスタイル科主任。**川俣純** かわまた じゅん
「子どもたちが学んだことを生かして次の授業をつくり、学びを積み上げていきたい」

を思い描き、今の自分に必要なことややるべきことを考える。学習の振り返りとどまらず、学んだことを自分自身や社会に結び付けるのがポイントだ。

次の単元の① IN：課題発見

自分が目指す生き方をグループで発表し、友だちと意見を交わし、更に考えを深める。

活動を振り返り、3年後の自分に手紙を書く。学習内容を基に次の単元の「IN」を設定することで、学びの連続を持たせ、関心や意欲を高めている。

中学生のキャリア単元に参加し 憧れの気持ちや目標を持たせる

各学年の学習内容は、9年間を通して育てたい姿を教師全員で共有した上でつくり上げている。キャリア教育における目指す子どもの姿は、「自分らしさや自分の良さに気付くと共に、社会の一員としての役割や仕事の価値観などを考えていく」というものだ。竹園東中学校のつくばスタイル科主任の川俣純先生はこう語る。

「キャリア教育では、家族や友だち、そして地域の人々とのかわりへと活動を広げていきます。9年間を見通して学習の流れを整理しているため、学びがスムーズに積み上げられ、小学校で学んだ内容を中学校でも重複して行うということがあります」

例えば、中学校では一般的に2年生で事業所での職業体験を実施するが、つくば竹園学園では、13ページで紹介した6年生のキャリア単元「広げよう！ 夢・希望」を踏まえて7年生（中学1年生）で行う。そうすることで、8年生（中学2年生）で、キャリア教育の集大成として、つくば市が毎年開催するイベント「ランタンアート」に企画から参加す

る時間を確保している。

「職業体験では、受け入れ先にお客様のように扱われ、『自分は地域の役に立った』といった実感が生まれにくいことがあります。そこで、もう一歩踏み込み、活動に主体的に参加することで、地域や社会の中で行動する力を育てたいと考えています」（川俣先生）

「ランタンアート」には、4年生も参加する。8年生の提案を基に、竹園西小学校の子どもとも意見交換をして自分たちなりの計画を立て、リハーサルに参加する（写真）。8年生の姿を目の当たりにすることで、身近な目標として意識させ、憧れの気持ちを抱かせたり、中学校の学習への期待感を高めさせたりすることをねらいとしている。

9年間の学びの系統表を作成し 各学年で付けたい力を明確化

9年間の学びの連続性を持たせるために、つくば竹園学園では独自に「学びのスキル系統表」を作成している。これは、子どもの実態を踏まえて教科ごとに課題を洗い出し、9年間で付けたい力を明確にして、各学年の指導方針を定めたものだ。

系統表の作成は、各校から教科ごとに代表者が集まって話し合い、その結果を各校の教科部会にフィードバックし、更に検討を重ねるといった流れで進めた。つくばスタイル科学園主任の谷山友香先生は次のように話す。



写真 「ランタンアート」のリハーサルは、4年生と8年生（中学2年生）が一緒に作業を進める。4年生が自分たちの計画に基づいて、8年生に提案をする場面を設けるなど、活動に主体的にかかわれるように工夫している

「それぞれの学校や教師に『こんな力をつけたい』といったさまざまな思いがあるので、課題や付けたい力を絞り込む作業が大変でした。子どもの実態は常に変化していますから、系統表が『完成』することはなく、いつも検討と改訂を重ねなくてはなりません」

作成に掛かった苦勞は小さくないが、その過程で教師が得た気付きには大きな意味があったという。

「9年後にありたい姿をイメージして課題や付けたい力を検討し、各学年の指導に落とし込んでいくという作業そのものが、貴重な教材研究や授業づくりとなりました。こうした作業を経て、自分の教えていることが9年間のどこに位置するかを強く意識して指導で

社会を生きる力を育む——地域、家庭とつくるキャリア教育

図 「つくばスタイル科学びのスキル系統表」(2014改訂案) 4年、6年、9年を抜粋

	IN	ABOUT	FOR
4年	<ul style="list-style-type: none"> 自分の生活と社会の関係を考え、課題を見いだすことができる (A2) 新たな自分の役割に期待をもつことができる (A1) 	<ul style="list-style-type: none"> 様々なメディアの活用と体験活動を通して必要な情報を集めることができる (E1) 集めた情報を項目を立てて整理し、分かりやすくまとめたり、発表したりすることができる (A1、D1) 学園内の上級生や下級生との意見交換を通してよりよい方法を見出し、考えを深めることができる (B2、C2、D1、D2) 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えや提案を地域へ発信することができる (D1、F2) 考えたことを自ら実践し、地域社会の一員として行動することができる (C1、F1)
6年	<ul style="list-style-type: none"> 身近な人との関わりから職業について考えることができる (A2) 調べたことを基に課題を設定し、自分の将来にどうつなげていくかを考えることができる (A1) 	<ul style="list-style-type: none"> 複数の情報を比較しながら調べることができる (E1) 働く人とコミュニケーションを図りながら工夫や努力を知り、友だちや中学生との意見交換を通して自分の将来への考えをまとめていくことができる (D2) 	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの考えについてテレビ会議などを通して他校の児童生徒と意見交換ができる (D1、D2、E2) 将来の夢や希望を持ち、その実現を目指して努力することができる (F2)
9年	<ul style="list-style-type: none"> つくばや日本の魅力と課題を考えることができる (A2、B1) つくばや日本のために何ができるのか考えることができる (A1) 	<ul style="list-style-type: none"> 収集した情報を基に、世界平和のために自分たちができることを考え、自分たちなりのアイデアを実現することができる (B1、B2、C2、D1、D2、E2) 	<ul style="list-style-type: none"> 「つくば市への提言」という形で自分たちの考えや学習の成果を発信できる (C2、D1、D2、F1) つくばや日本、世界平和のために協力して行動することができる (D2、E2、F1)

つくば次世代型スキル ●問題解決 A1 客観的思考力 A2 問題発見力 ●自己マネジメント B1 自己認識力 B2 自立的修正力 ●創造革新 C1 創造力 C2 革新性 ●相互作用 D1 言語力 D2 協働力 ●情報ICT E1 情報活用力 E2 ICT活用力 ●つくば市民 F1 地域や国際社会への市民性 F2 キャリア設計力
1～9年生の系統表のうち、3学年分を抜粋したもの *同校の資料から一部抜粋して編集部で作成

「系統的に力を付けるためには、子ども自身が9年間で目指す姿をイメージし、自分の成長を見通して学習に取り組むことが大切ではないかと考えています。教師用の系統表を土台として、各学年で付けたい力を子どもたちにも分かりやすいように説明しています」
(谷山先生)

子ども向けのスキル系統表は、教科書に貼るなどして、子どもが常に意識できるようにしている。研究主任の永岡範之先生は活用の仕方について次のように説明する。

「例えば、算数・数学では、どのような言葉を使えるようになれば、論理的な思考力が高まっていくかといったことを伝えていきます。子ども自身が系統表を見ながら言葉を獲得することもありますが、誰かが何気なくつぶやいた言葉に、『今、分かりやすい言葉を使ったね』などと、教師が広げることもあります」

教科によって体裁は異なり、つくばスタイル科では3ステップ(IN、ABOUT、FOR)ごとに付けたい姿勢や力を整理している(図)。各学年でどのような状態を目指すことがつくば次世代型スキ

ルの獲得につながるのかを共通認識して、学習を積み上げていく。

取り組みの成果

一生懸命考えて伝え合う姿勢が見られるように

発信型プロジェクト学習は、一人ひとりが自分の課題を見付け、考えを深め、発信するのが基本的な流れとなる。主体的にならざるを得ないため、子どもたちは自分の能力に応じて一生懸命に取り組む姿が見られる。

グループ活動を通して良い見本を示し合うような場面も多いため、友だちとのかかわりを通して思考を深めると共に、自分の考えを伝えようとする姿勢も育ってきた。

「学力にかかわらず、粘り強く説明しようとする姿が見られます。そうした姿勢が中学校へとつながっていくのだと思います。普段から中学生が毅然とした態度で話す姿を見る機会が多く、目標を抱きやすいこともプラスになっています」(永岡先生)

子どものスキル系統表は試行段階であるが、今後、子どもへの影響を見極め、教師用の系統表も見直していきたいと考えている。更に、キャリア教育をはじめ、学んだ内容が社会で生きる力につながりやすくなるよう、家庭との協力関係をより強める方法を模索する考えだ。